

## コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を！

熟議

子供たちのためにできること

年度末を迎えるにあたり、学校運営協議会の振り返りと次年度の運営に向けての話合いが各市町村及び学校単位で行われています。

現在、新たな教育課題の改善に向け、学校への一方的な支援ボランティアではなく、地域の子供たちの育成、地域の活性化をテーマに熟議を重ね、地域とともにある学校づくりを進めていくことが求められています。

小美玉市では、地域の窓口となる「地域学校協働活動推進員」の研修会を行いました。研修会は、各学校の地域学校協働活動を市で立ち上げた「地域学校協働活動本部」とリンクさせ、横の連携から自分たちの地域の活性化につなげられるように工夫していました。この取組は、これからの茨城を担う子供たちのために「社会総がかり」で支援する活動に繋がる好事例です。どこの市町村でも、地域学校協働活動の推進については課題は多いかと思いますが、子供たちのために、自分たちができることを本気で話し合える協議会になることを願っています。

ひたちなか市

大洗町

笠間市

小美玉市



### 春夏秋冬話（あきない話）

「その話、お断りいたします！」



3月は、卒業シーズン、そして、新たなステージへの旅立ちの時。たくさんの思い出を胸に、子供たちは、中学校、高等学校、そして大学、社会へと巣立っていく。先生方にとっても、人事異動により、新たな現場（学校、教育行政、教育関連施設等）へと踏み出す節目の時である。

この時期になると思い出すのが、優秀な教員を教育行政の現場（指導主事）に送り出した時のことである。当時、「是非、この先生を指導主事に推薦したい」と思える優秀な先生との出会いがあった。年齢的なもの、教科、そして、タイミングを考えても、絶対に今しかないと思い、「先生を指導主事に推薦したいのですが」と、お願いした。すでに行政経験もある先生だったので、「ありがとうございます。よろしく願いいたします。」と、返事が返ってくるものと信じて疑わなかったが、残念ながら、答えは「NO!」であった。勿論、最初は、謙遜しての返事かと思ひ、何度もお願いしてみたのであるが、答えが変わることはなかった。「私は、担任として、子供たちとともに自分も学び続けたい、教員生活を送っていききたい。」というものでした。「さすがだなあ、こんな先生と一緒に学校生活を送ることができる子供たちは、なんと幸せなのだろう」と思いながらも、教育長への返答の期限も迫る中、日に日に、焦りが募っていった。教育長には、承諾が得られない旨を匂わせながらも、説得を試みた。そして、今日駄目だったら諦めよう、正直に教育長にお話をしようと思ひ、「とにかく、もう一晩考えてみて、明日の朝、返事をしてくれないか」と最後の説得に出た。次の朝、その先生が校長室に入ってきた。「あの後、色々考えたのですが、『子供たちに新しいことにチャレンジしなさい』と言ってきた自分が、このお話から逃げてしまっただけでは、子供たちに顔向けができません。力不足で自信はありませんが、このお話をお受けいたします。」と言ってきたのである。勿論、承諾してくれたことは嬉しくて仕方なかったが、それ以上に、「子供たちに恥じない教師でありたい」「子供たちとともに自分も学び続けたい」というこの先生の信念に改めて感動した。

今、縁あって、この指導主事の先生と同じ職場におり、色々ご迷惑をおかけしながらもご指導をいただいている。「新しいことにチャレンジ」「子供たちとともに自分も学び続ける」の信念は、今も何一つ変わることはなく、子供たちの成長を願いながら仕事に邁進する姿に、目を細める毎日である。（by I・K）